

令和8年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第7号
(9月の発生予想)

令和8年8月31日

【作物名】 病害虫名	予報内容 発生量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比	予報の根拠
---------------	--------------------------------------	-------

【大豆】

ハダニ類	量：並	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
マメシンクイガ	量：並	① 前年の被害子実量は平年比やや多く、越冬幼虫数は平年よりやや多いと推測される。(+) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
	【防除上の留意事項】 防除適期は9月第2半旬までである。前年に被害が多かったほ場で、防除未実施の場合は確実に防除を行う。	
カメムシ類	量：並	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
	【防除上の留意事項】 重点防除時期は子実肥大中期(開花期7週間後頃)までである。カメムシ類の発生が多い場合は、この頃までに防除を行う。	

【だいこん】

モザイク病	量：並 程度：少発生 (発病株率1～20%)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② ウイルスを媒介するアブラムシ類の発生は平年比やや多いと予想される。(±～＋)
べと病	量：並 程度：少発生 (発病度1～15)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
黒斑細菌病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度1～15)	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 8月下旬の発生は未確認。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
白さび病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病株率1～20%)	① 前年の発生量は平年比やや少なく、伝染源量は平年比やや少ないと推測される。(－) ② 8月下旬の発生は未確認。(±) ③ 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
アブラムシ類	量：やや多い 程度：少発生 (発生程度指数1～50)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【だいこん】 つづき

コナガ	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1～10%)	① 8月下旬の発生は未確認。(±) ② 8月のフェロモントラップの誘殺数は平年並。(±) ③ 向こう1か月の気温は高く(－)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
-----	-------------------------------	--

【夏秋きゅうり】

べと病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1～25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
うどんこ病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1～25%) 【防除上の留意事項】 発生初期は発病葉をできるだけ除去する。	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
褐斑病	量：並 程度：少発生 (発病葉率 1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
アブラムシ類	量：やや多い 程度：少発生 (一葉当たり寄生虫数 1～10頭)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハダニ類	量：並 程度：少発生 (寄生葉率 1～2%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温には高いと予想されている。(＋)
コナジラミ類	量：多い 程度：少発生 (成虫寄生葉率 1～30%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生 (寄生葉率 1～5%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ハモグリバエ類	量：やや多い 程度：少発生 (被害葉率 1～25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)
ワタヘクロノメイガ (ウリノメイガ)	量：並 程度：少発生 (寄生株率 1～20%)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(＋)

【作物名】 病害虫名	予報内容 発 生 量： 平 年 比 発生程度： 発生時期： 平 年 比	予報の根拠
---------------	--	-------

【秋冬ねぎ】

さび病	量：少ない 程度：少発生 (発病度 1～5)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高いと予想されている。(－)
黒斑病・葉枯病	量：やや少ない 程度：少発生 (発病度 1～20)	① 8月下旬の発生量は平年比少ない。(－) ② 向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
軟腐病	量：並 程度：少発生 (発病株率 1～5%)	① 8月下旬の発生は未確認で、発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
ネギハモグリバエ	量：並 程度：少発生 (被害度 1～10)	① 8月下旬の発生量は平年比やや少ない。(－) ② 向こう1か月の気温は高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
ネギアザミウマ	量：多い 程度：多発生 (被害度 21～30)	① 8月下旬の発生量は平年比やや多い。(＋) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
【防除上の留意事項】 ① 薬剤防除は作用機構の同じ薬剤の連用は避け、作用機構の異なる薬剤をローテーション使用して抵抗性の発達を防ぐ。一部の薬剤に感受性低下が認められるので、最新の防除指針を参照する。 ② 収穫が近く発生が多い場合は、収穫 30 日前頃から 7～10 日間隔で 3～4 回薬剤散布する。なお、使用基準の収穫前日数に注意して、薬剤選定する。		
ネギコガ	量：並 程度：少発生 (被害株率 1～25%)	① 8月下旬の発生量は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
シロイチモジヨトウ	量：多い 程度：少発生 (被害株率 1～10%)	① 8月下旬の発生量は平年比多い。(＋) ② フェロモントラップの誘殺数は、平年比やや多い。(＋) ③ 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。

【その他】

【野菜・花き類 全般】 オオタバコガ	量：やや多い	① フェロモントラップの累計誘殺数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。
【大豆・果樹・野菜 ・花き類全般】 ハスモンヨトウ	量：やや多い	① フェロモントラップの累計誘殺数は平年並。(±) ② 向こう1か月の気温は平年比高く(+)、降水量はほぼ平年並(±)と予想されている。

～ 防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照してください ～

注１：①「予報内容」の発生量は、予想される発生量が、新潟県における平年の発生量に比べて多いか少ないかを、少、やや少、並、やや多、多の５段階で表記しています。
②発生程度は、予想される発生量が、国の調査実施基準等で定められている、無発生、少発生、中発生、多発生、甚発生のいずれに該当するかを表記しています。
注２： 「予報の根拠」の、（＋）は発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因、（±）はどちらともいえない要因を示しています。

～ 農薬は適正に使用しましょう ～

- 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。
- 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。
- 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。
- 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。
- 水田で湛水して農薬を散布する場合は、処理後７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

【参考】北陸地方 １か月予報（８月２９日から９月２８日までの天候見通し）
（新潟地方气象台：令和８年８月２７日発表）

<向こう１か月の天候>

・天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう１か月の平均気温は、高い確率６０％です。
週別の気温は、１週目は、高い確率５０％です。
２週目は、高い確率５０％です。
３～４週目は、高い確率６０％です。

<向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）>

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	１０	３０	６０
降 水 量	３０	３０	４０
日照時間	３０	４０	３０

<気温経過の各階級の確率（％）>

	低い	平年並	高い
１週目 （８月２９日～９月 ４日）	１０	４０	５０
２週目 （９月 ５日～９月１１日）	２０	３０	５０
３～４週目（９月１２日～９月２５日）	１０	３０	６０